

白山道奥公園愛護会通信

公園の花シリーズ：ギボウシ と オオバジャノヒゲ

先月は自治会・団地組合総会の準備などのため愛護会通信の発行はお休みしましたが、またまた再開です。

夏が近づき公園の植栽の緑も一段と濃くなってきました。公園の階段脇には夏に咲く花が何種類も植わっています。その一つが「ギボウシ(擬宝珠)」です。ギボウシはもともと日本や中国が原産の植物ですが、19世紀に中国からヨーロッパに渡り園芸用として人気が発見されたそうです。葉はすべて地際から伸びて広がるので、株全体の形はべちゃっとしたやや平べったい印象を受けます。夏に白やピンク色の花をながい花茎を伸ばして咲かせますが、この花が短命で一日でしぼんでしまうため「デイリリー」という英名があります。公園のギボウシもピンクの蕾が膨らみ始めており、この通信が回覧される頃には満開になっていることでしょう。



ギボウシの近くで可憐な白い花を咲かせているのは「オオバジャノヒゲ(大葉蛇の髭)」です。こちらはギボウシよりも目立たないので気がつかない方が多いかもしれませんが、公園の植栽の名札を頼りに探してみてください。オオバジャノヒゲは日陰に生えるユリ科の多年草で、花が終わった後冬にはきれいな青い実がつきます。この植物は根がところどころコブ状になりこれが「麦門冬(バクモンドウ)」と呼ばれる漢方薬として咳止めをはじめ、滋養強壮、鎮咳、消炎などに利用されているということです。

これ以外にも、かわいい山野草がそこかしこに花を咲かせています。ここでご紹介している写真は全て公園で撮ったものです。



皆さんも公園を散歩しながら目を凝らしてみてください。(K)